

太田川水系河川整備計画の目標及び対処方針について

(利水・環境・維持管理・流域に関する説明資料)

平成20年9月29日

太田川河川事務所

利水・環境・維持管理・流域に関する 目標及び対処方針

目 次

利水・環境・維持管理・流域に関する対処方針

1. 利水に関する事項（河川水の利用）	1
1. 利水に関する事項（水質）	2
2. 環境に関する事項（自然環境）	3
2. 環境に関する事項（河川利用）	5
2. 環境に関する事項（景観）	6
3. 維持管理に関する事項	7
4. 流域に関する事項（森林 沿岸域 流域連携と市民活動 情報提供と意見収集）	14

1.利水に関する事項(河川水の利用)

河川水の利用

住民ニーズ

(太田川の川づくりアンケート)

■現状の河川水利用には満足

・太田川の恵みで安定して水が供給でき、生活が営めることに感謝

■今後も水の安定供給を行うため、危機管理、渇水時の被害軽減対策が必要

・水不足で水道が利用できなくなるようなことのないよう対策を。

・品質面で安心できる水を家庭へ、資源面で安心できる量を企業へ、安定的に供給願いたい

■水量を確保して本来の川らしい川を目指す

・川の水量を多くし、本来の川の流れを増してほしい

・特に上流については発電により水量が少ないため、もっと水量を増やして川らしい川にしてほしい。

現状と課題

(依存度の高い太田川の渇水に対する備え、中流部の減水区間)

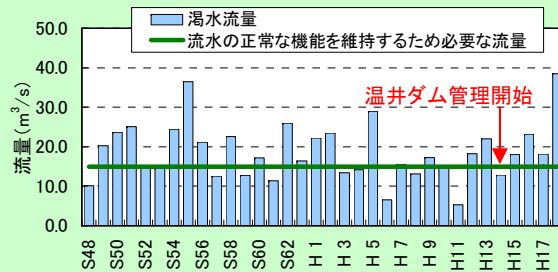
- 広域的かつ多用途な水利用
- ・土師ダムからの導水、島しょ部への送水もある



- ・太田川の流水は、発電、工業、水道、農業などの用水として利用
- ・下流デルタ域は工業地・住宅地が密集していることから、都市用水の利用が多い
- ・太田川水系における 年間の総発電量 910,000MWh → 広島市の約半数の世帯の消費電力に相当
- ・広域的かつ多用途な利用がなされており、ひとたび渇水が発生すれば社会生活に重大な影響を及ぼす

■流況(矢口第一地点)

- ・流水の正常な機能を維持するため必要な流量(概ね15m³/s)に対して、確保できていない年がある



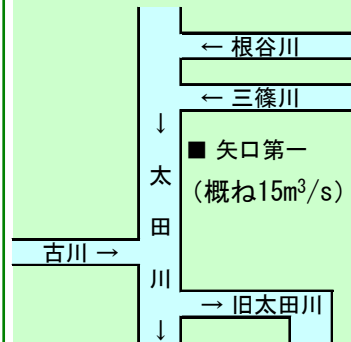
- ・中流部では、発電取水による減水区間が存在

目標

- 渇水時における被害軽減
- ・渇水時の被害軽減に努める

■流況の改善

- ・流水の正常な機能を維持するため必要な流量(矢口第一地点:概ね15m³/s)の確保に努める



- ・中流部の減水区間の流況改善(目標レベル→現状以上の流況確保)

実施内容

- 渇水時における被害軽減
- ・「太田川渇水連絡会議」を活用した情報共有、迅速な対応を図れる体制の確保、関係機関と連携した節水や水利用の調整

■流況の改善

- ・流水の正常な機能を維持するため必要な流量の確保や、中流部の減水区間の流況の改善を目指し、流況等の環境への負荷現象のモニタリングの実施、データを蓄積、関係機関の協力のもと協議を行う場の設立を図る等の調整

太田川での取り組み状況

《ガイドライン放流》

太田川では、「発電水利権の期間更新時における河川維持流量の確保のガイドライン」に基づき、この取り扱いに該当する水力発電所において、減水区間の維持流量の確保に努めている。



ガイドライン放流前の太田川(平成4年)



現在の太田川

1.利水に関する事項(水質)

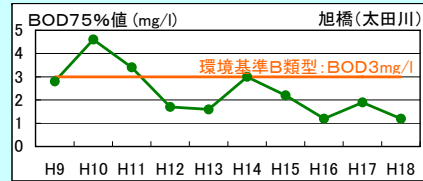
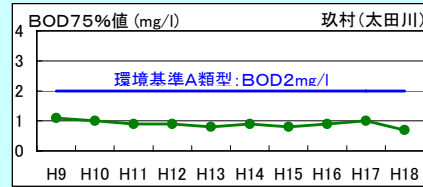
水質

住民ニーズ (太田川の川づくりアンケート)

- 現在の水質には満足
 - ・広島市は水道水がおいしい都市
 - ・良質な水に恵まれ自然環境もよく満足
- 水質保全のため下水道整備も必要
 - ・やっぱり、今以上に川がきれいになることを望む。広島の水はいつも美味しい…につながる
 - ・生活排水とのかかわりに留意する事が必要
 - ・上流の下水道整備をちゃんとしてほしい。
 - ・水質維持のためには下水処理施設のより一層の整備を進めてほしい

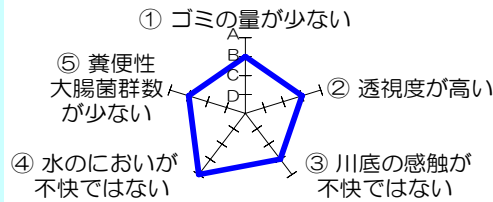
現状と課題 (良好な水質の維持)

- 水質の現状
 - ・A類型地点では環境基準を経年的に達成し概ね良好、B類型も近年では環境基準を達成(環境基準:A類型BOD2mg/l B類型BOD3mg/l)
 - ・平成17年より、新しい水質指標による調査を実施

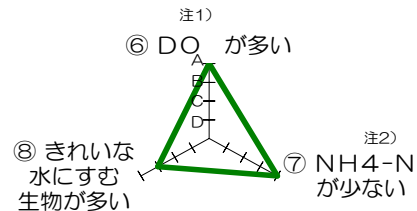


新しい水質指標による調査結果
(矢口川上流:平成19年度結果)

人と河川の豊かなふれあいの確保
(地点評価: B)



豊かな生態系の確保
(地点評価: B)



目標

- 水質
 - ・現状の良好な水質の維持・改善
 - ・(目標レベル→上工水等の目的に合った水質の維持・改善)



「新しい水質指標」の地域の住民との協働調査状況

注1)「DO」とは、水中に溶け込んでいる酸素の量を示します。数値が大きいほど水質が良いとされています。
注2)「NH4-N」とは、アンモニア性窒素のことで、数値が小さいほど水質が良いとされています。

実施内容

- 水質
 - ・定期的な水質検査の実施。ダム貯水池や河川の巡視
 - ・水質事故等への対応。下水道等の関連事業や関係機関との連携



水質事故訓練の様子



水質検査(採水・分析)

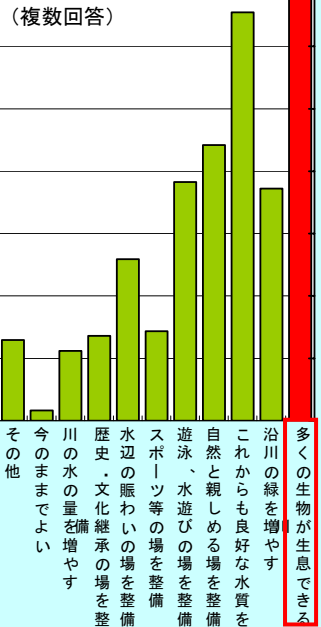
2.環境に関する事項(自然環境 1 / 2)

住民ニーズ

(太田川の川づくりアンケート)

■昔に比べると生物の数が減っており、多くの生物が生息する川にしてほしい

- ・多くの生物が生息できる川にする
- ・昔のように魚など生物が生息できるキレイな川にして、水遊びのできる川を取り戻してほしい
- ・水がきれいで魚がすみやすい太田川。子どもも安心して遊べる川



■自然環境に配慮した河川改修

- ・自然を大切にしながら浸水、洪水を防ぐようにしてほしい
- ・自然破壊のない環境にやさしい整備とともに強固な災害対策を
- ・災害防止はもっとも大切ですが、自然と景観を大事にした工事をしたい
- ・護岸工事に際してはできるだけ自然の石で堤防を築き、水辺の植物が茂りやすいような工夫を

現状と課題

(自然環境の保全)

■さまざまな生物の生息・生育する良好な自然環境



- ・重要な種として、魚類:16種、鳥類:24種、哺乳類4種、両生類・爬虫類:6種、昆虫類26種、底生動物5種、植物20種を確認 (※河川水辺の国勢調査による)

■アユやサツキマスは河口～鱒溜ダム(約76km)まで遡上可能



■浮石の減少、はまり石の増加も見られ、河道内の攪乱が必要

■改修箇所付近に生息する生物種

- ・瀬を摂食の場とするアユ
- ・中流の岩場に生育するキシツツジ



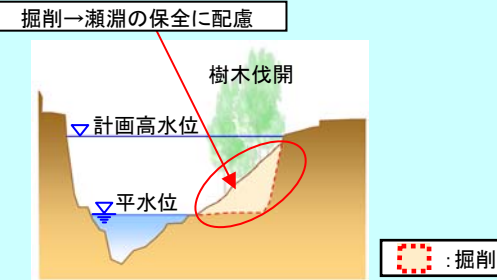
目 標

■自然環境の保全

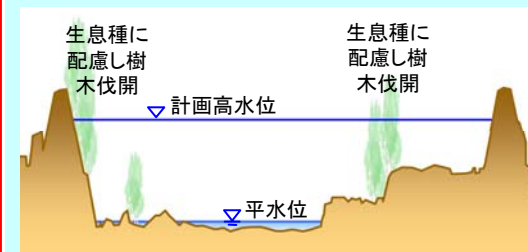
- ・中流部:豊かな自然環境の保全、川自らが環境を形成する空間の確保
- ・下流部:魚類の遡上・降下環境の改善や産卵床の保全、ワンド等の保全 (目標レベル→特徴的な希少生物が分布し続ける環境の維持、現況以上の移動状況)
- ・自然環境に配慮した河川改修

■自然環境に配慮した河川改修

- ・河床掘削が必要な箇所については、瀬淵の保全に配慮



- ・樹木により流下能力が阻害されている箇所は、生息種に配慮して樹木抜開



実施内容

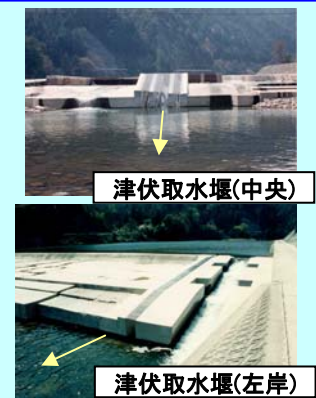
■自然環境の保全

- ・アユ産卵場やワンドの保全、高瀬堰付近における魚類遡上・降下環境の改善
- ・水門改築時における魚道整備
- ・温井ダムフラッシュ放流の運用、効果の継続的把握

良好な自然環境の保全



魚道改善の取り組み例 ~津伏堰~



温井ダムのフラッシュ放流



2.環境に関する事項(自然環境 2/2)

住民ニーズ

(太田川の川づくりアンケート)

■干潟の保全や塩生植物の保全

- ・干潟の保全に力を入れてほしい
- ・シジミ、アオサなどの潮干狩りの体験できるように河口を整備
- ・ヤマトシジミの養殖を奨励したり、塩生植物の保護にも力を尽くす

■市内派川の環境改善

- ・周辺の整備はだいぶされてきたと思うが。まだまだ干潮したときの砂が汚いと思う
- ・干潮になると小さいカニがたくさんいたが、今はほとんど見ないし、汚泥がたまっているように見える
- ・川底がもっと浄化されればいいと思う。干潮になっても川底が美しいとさらによい
- ・河口付近では川の中はヘドロがたまり、川ではなくどぶ川のようなのである

■栄養塩を運ぶ太田川

- ・魚も鳥も少ない。まるで死んだ川のようなのだ。源流から栄養分の多い水を取り入れるべきだ。
- ・上流部の山林をよく手入れして保水力を維持すると共に豊かな栄養分を運んで瀬戸内海の活性化を図りたい。
- ・市民の水源および広島県の栄養源として自然とのバランスを考慮して開発していただきたい

現状と課題

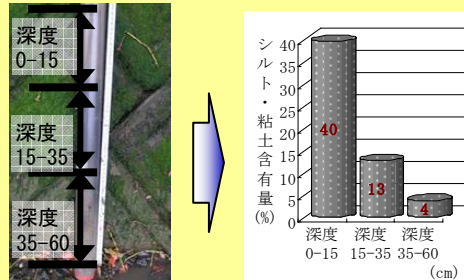
(干潟環境の保全や市内派川の環境改善、森・川・海の連携)

- 放水路を中心に干潟や良質な砂質河床が残っている
- ・現在でも、放水路を中心に干潟が残り、塩生植物群落など特徴ある植物が生育
- ・必要な治水対策による干潟への影響の恐れ



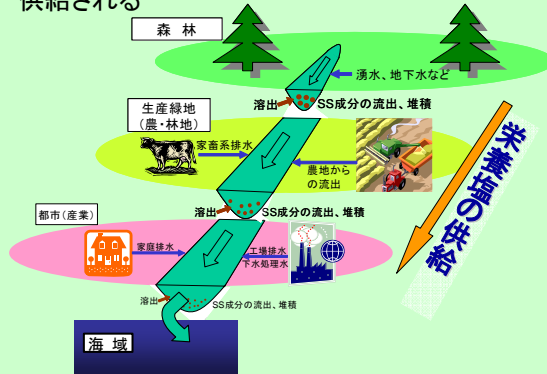
■市内派川におけるヘドロ堆積や黒色化

- ・市内派川のヘドロの堆積、黒色化も懸念



■中国山地に源を発し、広島湾に注ぐ太田川

- ・流域の森林からの栄養塩は川を通じて広島湾へ供給される



目標

- 干潟等、感潮域の河川環境の保全
- ・下流デルタ域:沿岸域の干潟等の保全、塩生植物群落等の生育する感潮域の保全

(目標レベル→下流デルタ域に特徴的な希少生物が分布し続ける環境の維持、干潟の機能が現状以上であること)

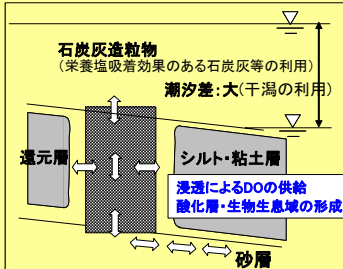
- 市内派川の浄化
- ・市内派川の底質改善 (目標レベル→人の集う箇所での有機泥の堆積状況を現状以下にする)

- 森・川・海の良い繋がりを意識した流域の健全な生態系の維持

■市内派川の環境改善

- ・人の集う箇所での有機泥の除去・浄化

底質改善に関する取り組み ~石灰灰による底質改善~



実施内容

- 干潟等、感潮域の河川環境の保全
- ・「太田川生態工学研究会」との連携による、干潟等のニーズを考慮した環境保全措置への積極的な対応

干潟再生に向けた取り組み ~太田川生態工学研究会~

- ・学識経験者等による「太田川生態工学研究会」を開催
- ・デルタ域の物理環境の解明や、放水路干潟における生態系環境調査・研究等を実施
- ・海水・汽水域での干潟の役割の解明と、保全を目指す



太田川放水路フクド群落調査風景

■流域全体の取り組み

- ・森からのケイ酸塩に着目し調査を継続



河川水の分析作業

2.環境に関する事項(河川利用)

河川利用

住民ニーズ

(太田川の川づくりアンケート)

- **水に親しむことのできる場所**
 - ・小さな子どもからお年寄りまでもっと水辺で人々が集える場所を
 - ・川で泳いだりするところがないので、水辺整備してほしい
 - ・上流では自然を親しみ、下流では水辺のコンサート・カフェ等楽しめる今のままの太田川の姿であってほしい
 - ・水辺の賑わい、憩いの場を市内ばかりでなく、支流など中山間地帯にも作ってほしい

■ 快適な河川空間

- ・近くを散歩すると、犬の糞やゴミでゆったりと過ごせない。
- ・不法投棄に対する罰則の強化等、対策の強化を
- ・子供を連れて遊びやすいように浅いところは危なくないように整備したり、公園みたいな所をつくったりしてもらいたい。

■ 自然・環境学習の場

- ・水辺を野外活動の場として学校教育に活かし、自然とのふれあいを通じ情操教育の一環とする
- ・子どもたちの学習の場としてもより利用できるように
- ・環境学習の場として活用されることを望む

■ 都市の水辺の充実

- ・干潮したときの砂が汚い
- ・パリのセリーヌ川のように市民が寛いで利用(散歩等)できること
- ・平和都市広島に相応しい太田川にすべき
- ・川岸緑地との一体化と橋梁区間へのアンダーパス整備を希望

現状と課題

(河川の利活用の推進、川との繋がりがや水辺の賑わいの回復、水の都ひろしま構想の推進)

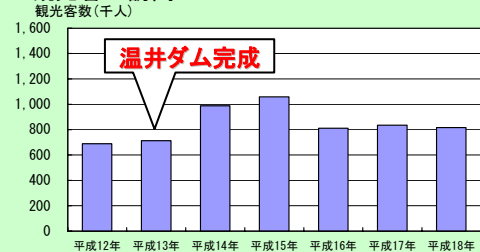
■ いろいろな目的で利用される河川空間

中流部

- ・豊かな自然環境、多くの観光客、アユ釣り、水遊びなどの家族連れの訪問
- ・溪流での魚とり
- ・地域の重要な観光資源になっている温井ダム
- ・温井ダム完成(平成13年)後、安芸太田町の観光客数増加
- ・温井ダム建設中に開催された「温井ダムまつり」は平成14年より「龍姫湖まつり」として地域に定着
- ・温井ダムの観光放流(夏期制限水位への移行時)等では多くの観光客が訪問



溪流での魚とり



安芸太田町の観光客数の推移(平成12年～平成18年)
出典: 地域再生計画(広島県、安芸太田町、北広島町)

下流部

- ・広い河川敷では親水空間が整備済
- ・各種イベントの開催



古川せせらぎ公園

下流デルタ域

- ・沿川の原爆ドーム等は、平和都市広島の特長空間
- ・下流デルタ域の干潟等は、シジミ採り等、河岸緑道は散歩等で市民利用が盛ん
- ・市内派川のヘドロ堆積、河床の黒色化の問題



シジミ採り

■ 水の都ひろしま 構想

(構想の基本方針)

- ☆ **つかう** (市民による水辺の活用)
- ☆ **つくる** (水辺空間整備とまちづくりの一体化)
- ☆ **つなぐ** (水辺のネットワークと水の都の仕組みづくり)

目 標

- 快適な水辺の創出
 - ・快適で安心して利用できる河川空間を地域と一体となり形成(目標レベル→現状以上の快適な水辺空間の創出)
 - 自然・環境学習の場
 - ・自然環境を活かした、自然とのふれあい、環境学習が出来る機会の増加(目標レベル→現状の親水空間等の拠点の増加)

■ 都市の個性と魅力ある水辺の創出

- ・「水の都ひろしま」にふさわしい、賑わいや、都市部の個性と魅力ある水辺の創出(目標レベル→現状の親水等の拠点の増加)
- (目標レベル→人の集う箇所での有機泥の堆積状況を現状以下にする)

実施内容

- 快適で安心して利用できる川づくり
 - ・安全な河川利用の推進
 - ・不法投棄や洪水時のゴミの速やかな撤去
 - ・不法投棄等の違法行為に対する監視及び啓発活動の実施
- 地域と一体となった川づくり
 - ・地域住民やNPO等の関係機関との連携による親水活動の実施
 - ・環境教育、河川愛護活動、「クリーン太田川」の継続的实施
- 自然とふれあえる河川空間の整備
 - ・中流部や支川での親水空間整備
 - ・地域と一体となり、温井ダム等水辺の活用を促進

河川利用に関する取り組み例



水辺プラザの整備イメージ



クリーン太田川の様子

■ 「水の都ひろしま」構想を踏まえ、市民、関係機関と協力した河川整備の推進

- ・市内派川における人の集う箇所での底質改善
- ・親水護岸整備



親水テラス(元安川)



自然石による高潮堤防護岸(元安川)

- ・橋梁部分のアンダーパス化

橋梁のアンダーパス化



(整備前)



(整備後)

橋により分断された遊歩道

- ・観光船等の航路の確保

2.環境に関する事項(景観)

景観

住民ニーズ

(太田川の川づくりアンケート)

■上中下流の特徴ある景観への配慮

- ・下流・中流・上流において景観を重視した整備作り
- ・自然と景観を大事にした工事をしていただきたい
- ・上流部の水確保を含めた景観をより育ててほしい
- ・美しい自然の景観と清流を与えてくれる「心のオアシス」
- ・太田川大橋付近から上流部の水量含む景観の保護改善

■下流デルタ域の景観の保全

- ・美しい町づくりのためにも、景観を考えつつ、整備して憩える場になればと思う
- ・きれいな水と景観保全で太田川デルタを水の都のシンボルとして後世まで引き継いでほしい
- ・水(川)の都、広島を大切にしたい

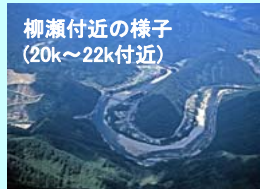
■美観を損なう不法係留船

- ・プレジャーボートの不法係留は見苦しい!広島の恥
- ・不法係留船を撤去するだけでだいぶイメージが良くなると思う
- ・不法係留船がなく広々と感じられる川風景にしてみたい
- ・橋につながれた不法係留船が景観を壊しているので、対応してほしい

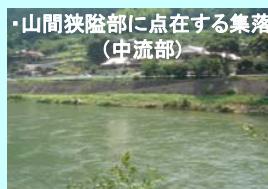
現状と課題

(特徴的景観の保全、水の都ひろしまのシンボルとなる河川景観の保全・創造、不法係留対策)

- 太田川の河川景観の特徴【可部を境に上流側:自然的景観、下流側:都市的景観と、景観が大きく異なる】



柳瀬付近の様子
(20k~22k付近)



・山間狭隘部に点在する集落
(中流部)



太田川下流デルタ域の様子



都市景観と調和した高潮堤防の整備事例

- 景観を考慮した先駆的事例

基町環境護岸

広大な河川空間の有効利用を図るため、昭和54年~昭和58年に整備

- ・治水と親水性の他、景観も考慮した護岸整備
- ・特に景観に関しては先駆的事例



昭和50年頃の様子



平成15年頃の様子

- 不法係留

- ・不法係留は、河川景観だけでなく、流水阻害が懸念され、河川の水位の上昇を招き氾濫被害を助長する恐れ



目標

- 特徴的景観との整合

- ・太田川の景観的特徴を次世代に継承するため、地域の特徴を踏まえた周辺環境と調和した河川整備
(目標レベル→現在と同様の河川景観の保持)

- 秩序ある水面利用と都市景観の保全・創造

- ・秩序ある水面利用を促し「水の都ひろしま」のシンボルとなる都市景観を形成している河川景観の保全、創造
(目標レベル→不法係留船を無くす)

- 景観悪化の一要因である

- 不法係留対策
- ・不法係留船対策の推進

不法係留対策(太田川マリーナ)



太田川マリーナの完成予想図

- ・河川景観を阻害する不法係留対策として、太田川放水路右岸に「太田川マリーナ」を整備

実施内容

- 中流域の自然的景観と調和した川づくり
- ・地域の景観に配慮した護岸等の整備



景観に配慮した中流部の護岸整備例

- 下流・下流デルタ域の都市的景観と調和した川づくり
- ・都市景観との調和を考慮した護岸等の整備

「水の都 ひろしま」の取り組み例



平和都市「ひろしま」の象徴
(元安川と原爆ドーム・平和祈念公園)

水の都ひろしま構想にもとづき、河川景観と都市景観の調和をめざした河川整備を実施している

3.太田川における維持管理の主な課題

太田川下流デルタ域ブロック

- 都市機能が集積した市街地で分派しているが、適正な分派が行われない恐れがある
- 常時潮位変動を受ける市内派川は護岸が空洞化しやすい
- 市内派川において不法係留が存在している

太田川下流ブロック

- 高瀬堰下流では滞筋が固定化して樹林化しやすい
- 祇園・大芝水門周辺で土砂が堆積し機能が発揮できない恐れがある
- 回遊魚(アユ・サツキマス等)の縦断的な移動環境

太田川中流ブロック

- 回遊魚(アユ・サツキマス等)の縦断的な移動環境

支川ブロック

- 河道内樹木が繁茂し流水を阻害

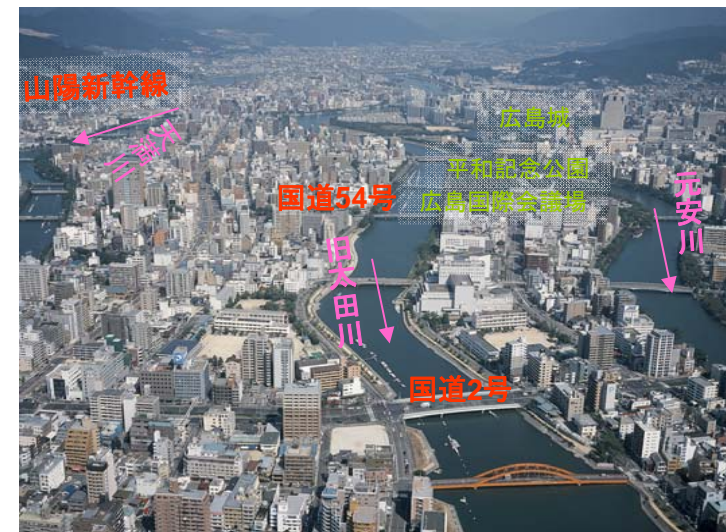
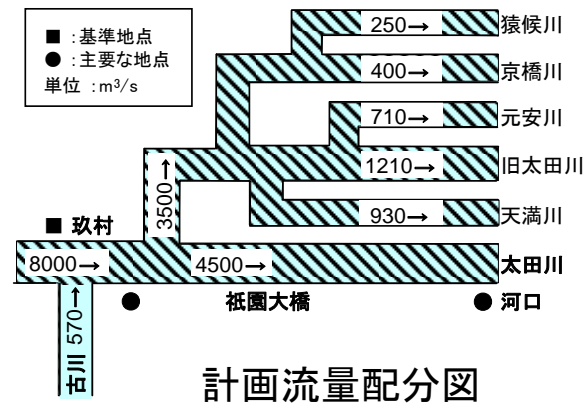
流域全体に係る課題

- 災害時には、人的・物的な被害を最小限にすることが求められている
- 老朽化などにより、河川管理施設が本来の機能を発揮できない恐れ
- 流出して甚大な被害を与える恐れのある許可工作物が存在
- 現在の優れた環境を今後も維持していく事が求められている
- 不法投棄が多発

3.維持管理において特に重要な特徴と課題

太田川下流デルタ域ブロック①

都市機能が集積する下流デルタ域で分派
分派地点は土砂堆積などにより適正な分派が行われにくい恐れがある

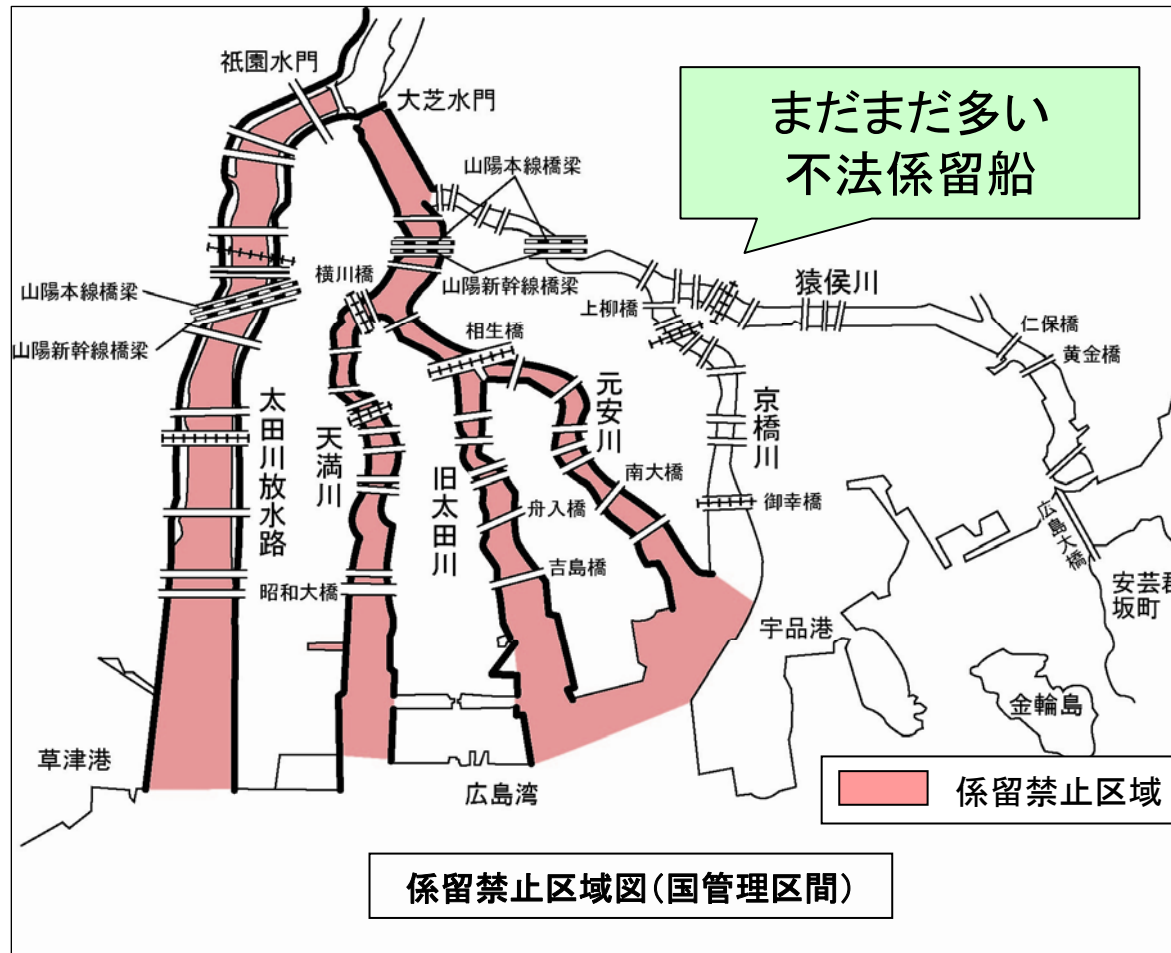


下流デルタ域には都市機能が集積している

3.維持管理において特に重要な特徴と課題

太田川下流デルタ域ブロック②

規制を行って減少傾向にあるが、まだまだ多い不法係留船
洪水時には、流水の阻害や、橋梁・護岸の損傷を招く恐れがある



不法係留の状況



橋脚に引っ掛かったプレジャーボート

3.維持管理において特に重要な特徴と課題

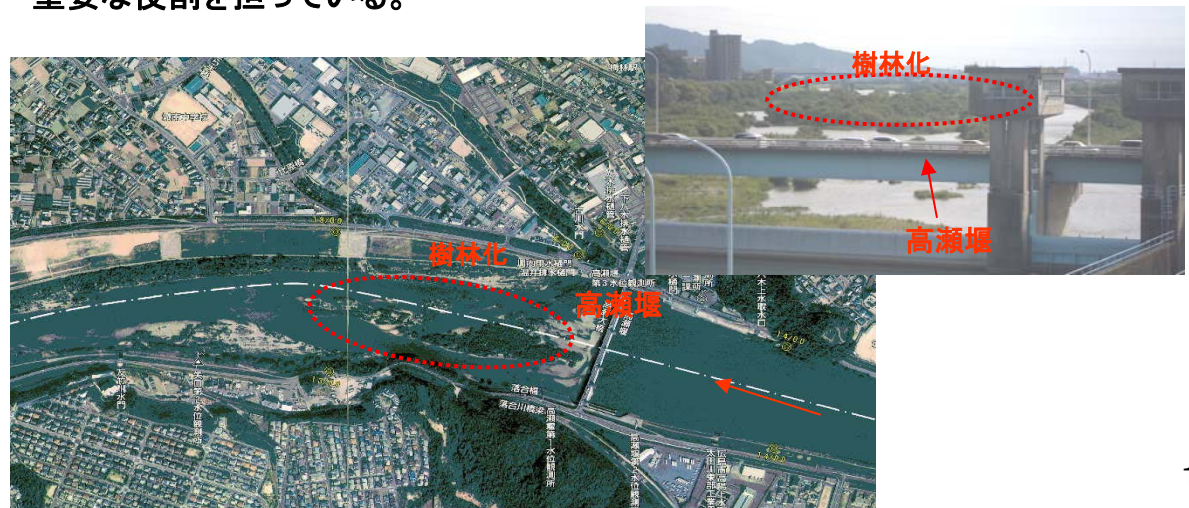
太田川下流ブロック

高瀬堰下流では、滞筋が固定化して樹林化
樹木が流水を阻害して、高瀬堰周辺及び上流側で流下能力が不足



凡例	
	: 流域界
	: 送水管(水道用水)
	: 送水管(工業用水)
	: 水道供給区域

約70万トン(1日あたり)の水を広島市、広島県内に広く供給しており、高瀬堰は重要な役割を担っている。



3.維持管理の特に重要な現状と課題と実施内容

特に重要な特徴と課題

下流部では、太田川沿いに住宅地が密集

高瀬堰下流では河道内の中州が樹林化

分派により市内派川の流量が決定

市内派川では依然として船舶の不法係留が存在

下流デルタ域は、高度な都市機能が集積した市街地

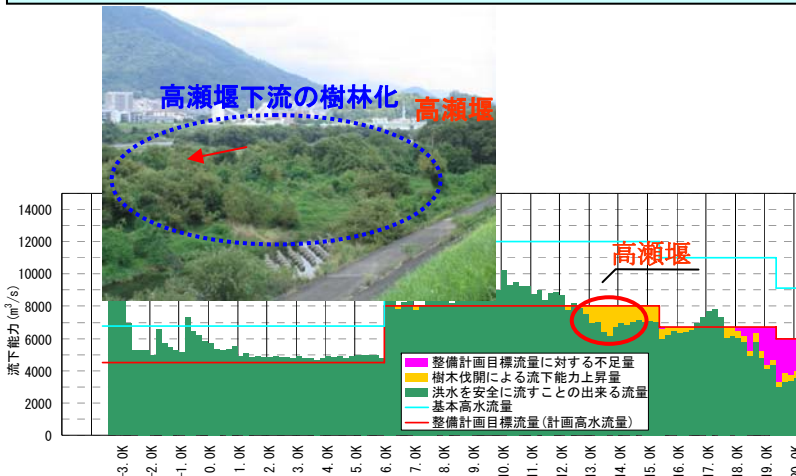
- 都市機能が集積した市街地で分派
 - ・分派地点では複雑な水の流れ
 - ・堆積土砂が分派量に影響
 - ・祇園・大芝水門により下流デルタ域の流量が決定

- 高瀬堰下流では滞筋が固定化して樹林化
 - ・河積阻害により流下能力が不足

- 市内派川において不法係留が存在
 - ・洪水時に流水阻害や事故のおそれ

高瀬堰下流の河道内の樹林化対策

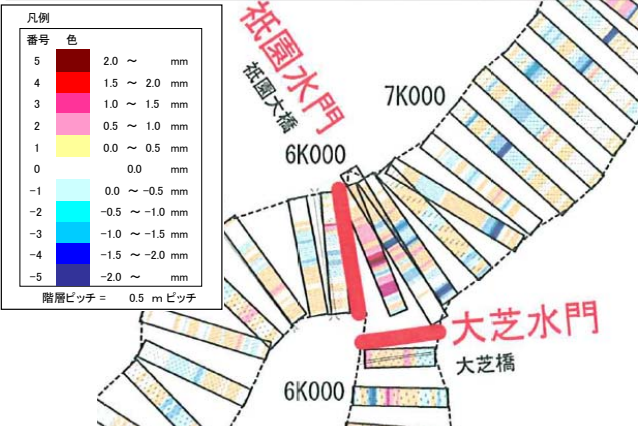
高瀬堰下流では滞筋が固定化して樹林化
→高瀬堰周辺から上流で流下能力が不足



- ・流下能力不足が生じる箇所の樹木を伐開
- ・樹木伐開後に、土砂堆積や再樹林化しないよう維持管理を実施

洪水後の河床変動状況の把握

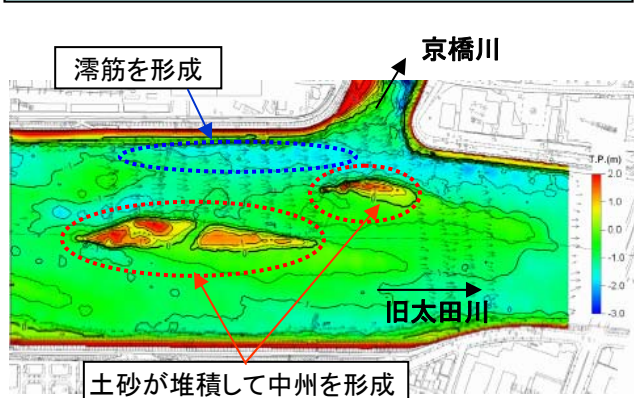
分派地点や構造物周辺では土砂の堆積が発生



- ・定期横断測量や洪水後(はんらん注意水位以上)の横断測量を実施して河床の変動状況を把握
- ・必要に応じて堆積箇所の土砂管理や構造物の維持管理を行う

分派地点の堆積土砂の把握・管理

分派地点付近では複雑な流れが生じており、土砂の堆積が洪水時の分派量にも影響を与える



- ・洪水時の高水流量観測による分派量の把握
- ・必要に応じて土砂管理等を行い適正な分派量を維持

不法係留船対策

市内派川では、船舶の不法係留が存在する
→洪水時には、流水阻害や構造物損傷の恐れがある



不法係留船に対する監視や撤去指導、太田川マリナーの整備により不法係留ゼロを目指す

3.維持管理の現状と課題と実施内容

現状と課題

■災害時には、人的・物的な被害を最小限とすることが必要

○CCTVカメラのライブ映像による河川情報の提供を実施中



○迅速な復旧活動により洪水時の被害は最小限におさえる

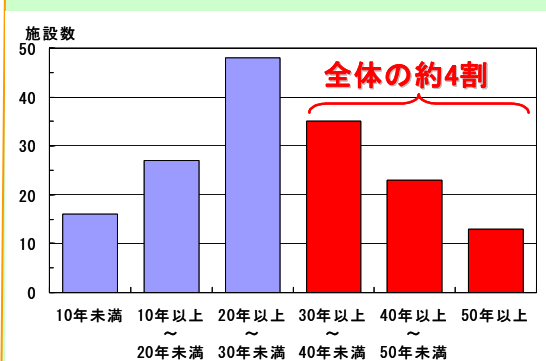


○今後の対策や、防災体制の充実のため、災害時、災害後のデータの蓄積が必要



■老朽化などにより、河川管理施設が本来の機能を発揮できない恐れ

○河川管理施設の4割が築30年以上



○河川パトロール、堤防点検を実施中



○市内派川の一部で護岸が空洞化 ○分派地点周辺で土砂堆積



※)河川管理施設は、堰、排水樋門、排水機場等

実施内容

■防災体制の充実

- ・情報収集・伝達体制の充実
- ・水防活動に必要な水防資材の備蓄、水防団及び関係機関との情報の共有
- ・年2回程度、防災訓練を実施
- ・水質事故時には速やかな対策を実施

■災害時・災害後のデータの蓄積

- ・5年に1回程度にくわえ、観測所において氾濫注意水位を上回る洪水が発生した場合に、縦横断面測量、樹木・河床材料等の調査を実施
- ・通年の水位・雨量観測、水質調査に加え、洪水後の痕跡調査、濁水時の瀬切れ調査、水質事故時の原因究明等の詳細な調査を実施

■堤防・護岸の機能維持

- ・平常時の巡視、出水期前、出水後の点検を行い必要に応じて調査・補修を実施
- ・市内派川等の護岸は空洞化対策として調査・補修を実施

■老朽化対策

- ・モニタリング調査を行い必要に応じて修繕

■安全かつ確実な市内派川への分派

- ・洪水時の高水流量調査により洪水規模毎の分派量のデータを蓄積・整理する
- ・河床の維持掘削による土砂堆積の解消

3.維持管理の現状と課題と実施内容

現状と課題

■現在の優れた環境を今後も維持していくことが求められている

○河口から約76kmをサツキマスが遡上できる

○瀬・淵など良好な自然環境が残る



下流域にはアユの産卵場が存在



中流部は蛇行して良好な瀬・淵が発達

実施内容

■瀬・淵・レキ河原の保全

・維持管理に必要な工事実施時に、極力現状の自然環境を改変しないよう努める

■回遊魚(アユ、サツキマス等)の縦断的な移動環境の確保

・魚道などでの魚類の遡上・降下環境の維持に努める

・必要に応じて横断構造物や魚道を修繕

■一部河道内に樹木の繁茂や土砂堆積により流水を阻害

○河道内に樹木が繁茂し、流水を阻害



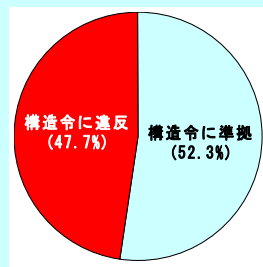
河道内樹木の繁茂状況

○住民アンケートで、景観の面からも樹木の伐開を望む声がある

■流水阻害により不足の水位上昇や、流失して甚大な被害を与える恐れのある許可工作物が存在

○太田川にかかる193橋のうち92橋が構造令に準拠していない

○洪水時に流水を阻害するほか橋の被災により地域が分断



被災を受けた橋梁の例

■樹木伐開・堆積土砂撤去

・流下能力不足が生じる箇所を伐開

・河床の維持掘削による土砂堆積の解消

■適切な管理指導

・堰や橋梁の施設管理者に適切な管理を指導

■対策を行っているが、まだまだ不法係留・不法投棄が存在

○不法係留船対策により減少したが、まだまだ不法係留が存在

○クリーン太田川などを実施中だが不法投棄がまだ多い



市内派川の不法係留



H19クリーン太田川



不法投棄物の引き揚げ作業

■不法係留船対策

・河川巡視による係留状況の監視及び口頭・文書による撤去指導を行なう

・必要に応じて強制撤去を行なう

(・太田川マリーナの整備)

■不法投棄対策

・利用状況の監視・指導を継続実施

・地域住民やNPOと連携して、環境教育、河川愛護活動、クリーン太田川を継続実施

・河川清掃船による水面清掃

4.流域に関する事項(・森林、沿岸域、流域連携と市民活動 ・情報提供と意見収集)

・森林、沿岸域、流域連携と市民活動

・情報提供と意見収集

住民ニーズ

(太田川の川づくりアンケート)

■森林と沿岸域(山・川・海のつながり)

- ・山に広葉樹を植えるなど海と山との共存
- ・山・川・海は続いている。環境を考えたとき、川だけではだめ
- ・自然界をうまく利用し、川だけでなく海にもよい影響が出るようにしてほしい

■流域連携や市民活動の推進

- ・太田川を活用したスポーツ、文化などのイベント、上流地域と中・下流地域の交流・連携
- ・上流と下流に住む人の交流があると良い。水と山林とは切り離せない。川のみを見るのではなく、全体的な地域づくりが必要
- ・子供、親などが触れ合え、勉強できるようなイベントを企画してもらえたら参加して親してみたい
- ・広島市以外に住んでいる人にも親しみ、参加しやすい活動を

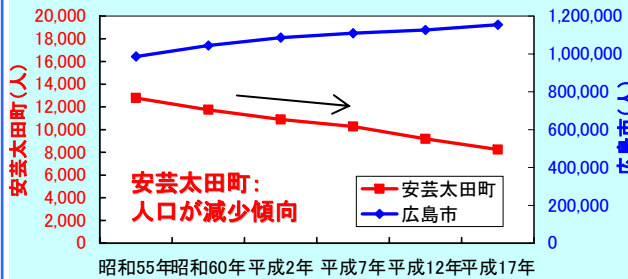
■情報提供と意見収集の推進

- ・水の大切さ、川があることで広島は恵まれていることを知らせる
- ・日頃の巡回点検を怠ることなく地元の見聞にも耳を傾ける
- ・年に数回程度専門家以外の人も含めて意見交換の場を設ける

現状と課題

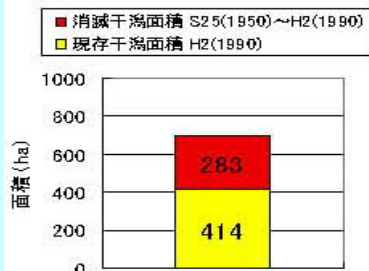
(流域全体で河川を考える必要性、沿岸域への配慮、さらなる広報・広聴活動の推進)

■上流域の地域活力の低下への対応



安芸太田町と広島市の人口の推移

■環境の悪化が進む沿岸域



■流域連携と市民活動



市民団体による草刈り



映画の撮影

■住民への広報・幅広い広聴



第1回 太田川河川整備懇談会

目標

- 流域全体での取り組み
 - ・流域の発展のため、森、川、海、流域全体で考え、森と海を繋ぐ回廊である太田川をよりよい川とすることを旨とする(目標レベル→現状以上の交流活動を目指す)

■広報と広聴

- ・太田川に対する理解の促進
- ・透明性、公平性を確保し、学識者、地域住民など幅広い方々から積極的に意見を聴取(目標レベル→住民が満足感を得られる広報・広聴の推進)

■わかりやすく積極的な情報提供

- ・出前講座等の広報活動
- ・報道機関の協力による積極的な情報提供
- ・GoGiルームの必要に応じた改善

■広聴活動

- ・学識懇談会、住民意見を聴く会、太田川住民アンケートの活用、GoGiルーム内に設置されたオープンハウス等を通じた意見聴取

広報・広聴活動に関する取り組み例



第1回太田川住民意見を聴く会(東区戸坂公民館)



こどもモニター(中州の自然観察)



GoGiルーム(事務所1F)



事務所ホームページによる情報発信

実施内容

- 流域全体での取り組み
 - ・広島湾再生推進会議等、関係機関と連携した川づくり推進
 - ・市民団体の活動紹介や支援
 - ・温井ダム水源地域ビジョンによる地域活性化

美しい広島湾を保全する取り組み例(広島湾再生推進会議)



市民団体との連携による水質・水生生物調査



太田川におけるケイ素のモニタリング

流域連携に関する取り組み例(温井ダム水源地域ビジョン)

「温井ダム水源地域ビジョン」策定のため、安芸大田町において「温井ダム活用会議・連絡会」を開催



安芸大田町で開催された温井ダム活用会議・連絡会

「温井ダム水源地域ビジョン」
↓
温井ダムを活用した地域づくり等を目指した行動計画